

HAYDN^{HM.} MARATHON 37

ファイナルイヤー

2024
2025

日本センチュリー交響楽団

ハイドン マラソン

Final Year

10年の歳月をかけて挑む大プロジェクト

いよいよ完結へ—!!



世界屈指のトロンボーン奏者が待望の出演!
ミハエル・ハイドンの名曲と
共鳴する「ホルン信号」

ハイドン:交響曲 第66番 変ロ長調 Hob. I:66
J. Haydn:Symphony No.66 in B-flat major, Hob. I:66

M. ハイドン:アルト・トロンボーン協奏曲 ニ長調
M. Haydn:Concerto for Alto Trombone and Orchestra in D major

ハイドン:交響曲 第31番 ニ長調 Hob. I:31 「ホルン信号」
J. Haydn:Symphony No.31 in D major, Hob. I:31, "Horn Signal"

2024. **10.10** 木 19:00開演 (18:00開場) **ザ・シンフォニーホール**

A席 5,000円 / B席 4,000円

一般発売日 2024年 7月17日(水)

ご予約・お問合せ

▶センチュリー・チケットサービス ☎06-6848-3311 (平日10:00-18:00)

ご予約

▶センチュリー・ネットチケット(24時間) ▶ザ・シンフォニーチケットセンター ▶e+(イープラス)
https://www.jcso.or.jp/ticket/ ☎06-6453-2333 (11:00-16:00 火曜休) https://eplus.jp/



※未就学児入場不可 ※やむを得ない事情により
出演者・曲目等が変更になる可能性があります。
予めご了承ください。

主催:公益財団法人日本センチュリー交響楽団 協力:ザ・シンフォニーホール、関西トロンボーン協会 助成: 大阪市助成

スペシャル
スポンサー 地主株式会社
JINUSHI Co.,Ltd.

スペシャル
スポンサー 旭酒造株式会社

フレンドシップ
パートナー GAMBBA
OSAKA

オフィシャルスポンサー 栄光ホールディングス株式会社 / MKDII-7
株式会社エムズ住建設 / ONKYO / KANEKA / 共栄法律事務所

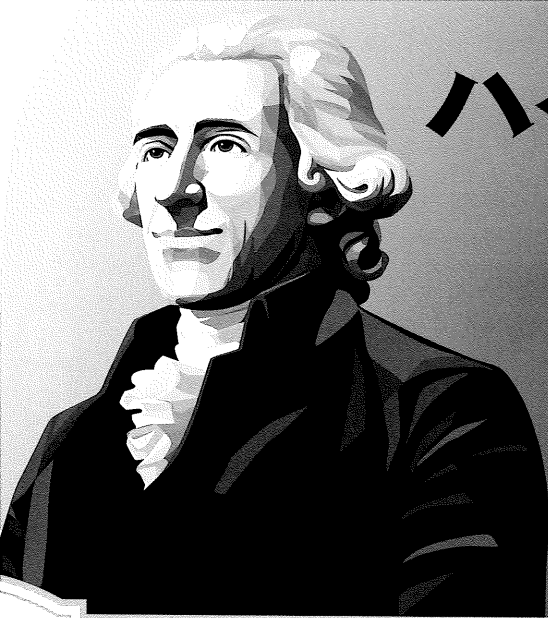
KINCHO / TheSymphonyHall / 新コスモス電機株式会社

TCG 高松コンストラクショングループ / S Shadow / TAKUMA / TOYO TIRES

Hankyu / THE HILTON PLAZA / 三井住友信託銀行

日本センチュリー 検索





ハイドン マラソン **HAYDN^{HM} 37** MARATHON

飯森範親マエストロと日本センチュリー交響楽団が挑む、ハイドン全104曲の交響曲を演奏、CD化する一大プロジェクト＝ハイドンマラソン。いよいよ残すところあと2回になりました。今回は、コロナ禍で出演が叶わなかったトロンボーン界の若きレジェンド、ファブリス・ミリシエーが待望の出演です！氏がソロを務めるアルト・トロンボーン協奏曲は、ハイドンの5歳下の弟ミハエル・ハイドンの作品です。ミハエルは兄・ハイドンと同じくウィーンの聖シュテファン大聖堂の聖歌隊を経て、1763年にはザルツブルク大司教の宮廷楽団の楽長を務め、多くの器楽曲や教会音楽を生み出しました。技巧的かつ華やかな協奏曲をミリシエーがどのように聴かせてくれるのか、ご期待ください。ハイドンの作品は、明るく快活な第66番と4本のホルンが大活躍する第31番「ホルン信号」をお届けいたします。ブラスの響きが輝く華やかな楽曲たちを会場であっふりりとご堪能ください！



飯森 範親

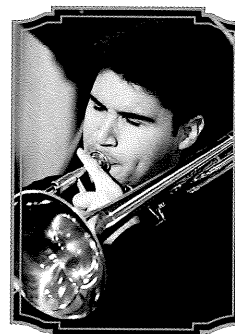
Norichika Iimori / Conductor
日本センチュリー交響楽団 首席指揮者

桐朋学園大学指揮科卒業。ベルリンとミュンヘンで研鑽を積み、94年から東京交響楽団の専属指揮者、モスクワ放送交響楽団特別客演指揮者、広島交響楽団正指揮者などを歴任。96年、東京交響楽団のヨーロッパツアーでは「今後、イモリの名が世界で注目されるであろう」と絶賛された。その後、同楽団とは密接な関係を持ち、正指揮者、特別客演指揮者を務めた。03年、NHK交響楽団定期演奏会にマーラーの交響曲第1番でデビューを飾る。06年度芸術選奨文部科学大臣新人賞、06年度中島健蔵音楽賞を受賞。

海外ではフランクフルト放響、ケルン放響、チェコ・フィル、プラハ響などに客演を重ねる。01年よりドイツ・ヴェルテンベルク・フィルの音楽総監督(GMD)に就任し、ベートーヴェンの交響曲全集を録音。06年の日本ツアーを成功に導き、2017年5月にはミュンヘンのヘルクレスザールを始めドイツ国内のツアーにて指揮。同年9月にはポーランドのオルシティン・フィルのシーズン開幕を指揮し成功を収めている。

また、オペラでも高い評価を得ており、新国立劇場の2020/2021シーズン開幕公演であるブリテンのオペラ「夏の夜の夢」を指揮、好評を博し大成功を収めた。2024年は新国立劇場「コジファン・トゥッテ」に出演、さらに11月には藤原歌劇団創立90周年記念公演「ピア・デ・トロメイ」への出演が予定されている。

現在、日本センチュリー交響楽団首席指揮者、パシフィックフィルハーモニア東京音楽監督、群馬交響楽団常任指揮者、山形交響楽団桂冠指揮者、いづみシンフォニエッタ大阪常任指揮者、東京佼成ウインドオーケストラ首席客演指揮者、中部フィルハーモニー交響楽団首席客演指揮者。
オフィシャル・ホームページ <http://iimori-norichika.com/>



ファブリス・ミリシエー

Fabrice Millischer, Trombone
トロンボーン

2007年ARDミュンヘン国際音楽コンクール優勝。ソリストとして、ウィーン室内管弦楽団、シュトゥットガルト放送交響楽団、ロシア国立エルミタージュ交響楽団、トゥールーズ・キャピトル国立管弦楽団、カンヌ交響楽団、ウクライナ国立管弦楽団と共演。2008年以降は、ザールブリュッケン・カイザーラウテルン・ドイツ放送

フィルハーモニー管弦楽団で首席トロンボーン奏者を務めた。ブダペスト国際トロンボーンコンクール、トゥールーズ・パロック・トロンボーンコンクールで入賞。米国芸術文学アカデミーから銀メダルを授与された。2011年には、フランスのクラシック音楽大賞である「ヴィクトワール・ド・ラ・ミュージック・クラシック」で「最優秀若手ソリスト賞」をトロンボーン奏者として初めて受賞。また同年、フランスの権威ある音楽大賞「シャルル・クロ・アカデミー」でグランプリを獲得。2008年からパリのポール・デュカス音楽院にて教鞭をとり、2009年にはドイツのザール音楽大学でトロンボーンの教授に就任し、ドイツで最年少のトロンボーンの教授となった。現在は、フライブルク音楽大学およびパリ国立高等音楽院でトロンボーンの教授を務めている。〈アントワヌ・クルトワ〉のアーティストとして、AC422Bを愛用している。



日本センチュリー交響楽団

Japan Century Symphony Orchestra 街に響く。心に届く。

1989年に活動を開始し、大阪府・豊中市を拠点に活動するオーケストラ。現在、飯森範親が首席指揮者、秋山和慶がミュージックアドバイザー、久石譲が首席客演指揮者(2025年4月より音楽監督就任予定)を務める。ザ・シンフォニーホールで開催するシンフォニー定期演奏会、ハイドンの交響曲全曲演奏・録音プロジェクト「ハイドンマラソン」に加えて、豊中市立文化芸術センターでの名曲シリーズを展開する。2度にわたり大阪府文化祭奨励賞を受賞する(2015年度、2018年度)など、その高水準な演奏は高い評価を得ている。2023年10月には、11年ぶりの海外公演となる「マカオ国際音楽祭」に出演し、大盛況を収めた。オーケストラ体感コンサート「タッチ・ジ・オーケストラ」、ユースオーケストラの運営といった教育プログラム、「豊中まちなかクラシック」(豊中市)、「ルシオール街かどコンサート」(滋賀県守山市)等の地域連携事業にも力を入れている。「優れた演奏により地域の力を発信する」「オーケストラによる感動と癒しを提供する」「優れた才能を発掘し次世代の育成に寄与する」「国際相互理解や平和に積極的に貢献する」の4つの理念のもとに、本拠地・豊中から日本中へ多くの人々の心に明るい夢が広がることを願い、活動している。2024年12月に楽団創立35周年を迎える。オフィシャル・ホームページ <https://www.jcso.or.jp>

2024

HM.34
3/1

HM.35
5/10

HM.36
6/20

HM.37
10/10

GOAL!

2025
HM.38
3/21



ハイドンマラソン ファイナル HM.38

2025. 3/21 (金) 19:00開演 (18:00開場)
ザ・シンフォニーホール

12/18(水)
発売

指揮：飯森 範親
合唱：日本センチュリー合唱団

ハイドン：交響曲 第84番 変ホ長調 Hob. I:84

モーツァルト：アヴェ・ヴェルム・コルプス K.618、レクイエム ニ短調 K.626より「ラクリモザ」

ハイドン：交響曲 第104番 ニ長調 Hob. I:104 「ロンドン」